學報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter

Vol.22
2017.6.25
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3. 研究科長・学部長・センター長挨拶 —— 2面
4. 卒業式挙行 —— 2面
5. 入試結果概要 —— 3面
6. 就職状況について —— 3面
7. 優秀学生表彰 —— 3面
8. 2年次所属学科選考開始 —— 3面
9. 保護者説明会 —— 3面
10. 留学生修了式 —— 4面
11. 交換留学生歓迎会開催 —— 4面
12. 留学生紹介 —— 4面
13. 本年度も地域交流始まる —— 4面
14. レスブリッジ大学との提携交流 —— 5面
15. 留学だより —— 5面
16. 高校生懸賞作文を募集 —— 5面
17.「研究のいま」竹野学教授 —— 6面
18. モンゴル文化教育大との学術交流シンポ— 6面
19. JR貨物グループ安全発表会 —— 6面
20. ゼミ訪問 田辺ゼミ —— 6面
21. 2017年度 前期公開講座 —— 7面
22. 中国語コンテスト、韓国語能力試験結果報告 — 7面
23. サークル活動紹介 —— 7面
24. OB・OG NOW！ —— 7面
25. 新任教員・交換教員紹介 —— 8面
26. BOOKS NOW! 図書館においでよ !! —— 8面
27. 学生相談室ニューズレター5 —— 8面
28. 行事予定 —— 8面

レスブリッジ大学から交換研修生来日

6月8日理事長主催歓迎会にて(関連記事5面)。レスブリッジ大学から来日した交換研修生と引率のリチャード・ミュラー先生(左から5人目)、森本正夫理事長・学長(中央)

平成29年度 学式挙行

平成29(2017)年度入学式が4月3日の月曜日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて挙行されました。今年度の入学者は、商学部231名、交換留学生9名（中国煙台大学6名と韓国大田大学校3名）のあわせて240名の新入生を迎えました。森本正夫学長の式辞に続いて入学者を代表して、今茉理佳（北海道枝幸高校卒）さんによる入学者宣誓が行われ、その後研究科長、学部長、各センター長、教員の紹介が行われました。また式終了後には、商学部長伊藤昭男教授より新入生・保護者へ説明会を行い希望者向けに本学施設見学も実施いたしました。（葛西）

平成29年度(第41回) 入学式式辞

北国の春のこの佳き日に、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長　安酸敏眞先生、北海高等学校の校長　山崎省一先生、北海学園札幌高等学校の校長　大西修夫先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海商科大学の新入生231名と、交流校である中国煙台大学から６名、韓国大田大学校から３名の留学生を迎えました。

合わせて240名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙行できますことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北で最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学し、12回目の入学式を迎えました。

この北海商科大学の新たな歴史は、入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作って行くことを楽しみにしております。

北海商科大学はまだ歴史の浅い大学ですが、母体である北海学園の歴史は古く、創立は132年前の明治18年（西暦1885年）にさかのぼります。現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海高等学校と北海学園札幌高等学校を設置しており、１万１千名ほどの学生生徒が日夜、勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は16万名を超え、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新入生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商取り引きやビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れて展開しております。

特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外国語の教育と異文化の理解に力を入れています。本学の海外の教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州のカナダのアルバータ州南部にあり、36年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市になりました、昔の百済王国の地にある大田広域市の大田大学校がすでにそれぞれ皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと新しい大学で学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探求するところです。基礎的な教育もあれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながります。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。

私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると思っております。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関するやり取りを通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切にし、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新入生の皆さんにおかれましては、きょうの入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、精一杯努力することを期待して学長の式辞といたします。

平成29年4月3日　　北海商科大学　学長　森本　正夫

ホテル札幌ガーデンパレスにおいて挙行された2017年度入学式
上左：式辞を述べる森本正夫学長　上右：代表者による入学者宣誓
中：新入生のみなさん　下：式後の記念撮影

研 平成29年度 研究科長・学部長・センター長挨拶

学部教育と大学院の教育連携

大学院研究科長
阿部 秀明 教授

大学院設置から6年が経過した本学大学院は、これまで中国社会科学院をはじめ中国山東・煙台大学、韓国大田大学校と提携し、数多くの学術研究・教育交流を実施し一定の評価を受けてきました。

第２サイクルとなる今年度は、他校に先立ち、学部教育と大学院の教育連携を図る「3+2システム(学部教育３年､大学院教育２年)」の具体化を実践します。乞うご期待ください。

「想像する力」が向上することを期待

商学部長
伊藤 昭男 教授

ある霊長類研究者によるとチンパンジーなどの霊長類は親の行為を真似るまではできても学んだり教える行為はなく、「教える」という発明は人間独自の本質的なものであるという。大学での学びは単に知識を獲得することではなく、未来を展望し行動していくための「教える」ことから生じる「想像する力」を養う上で極めて重要である。本学学生が教育目標である「アジアの時代にアジアを学ぶ」という特色も踏まえ「想像する力」が向上することを期待している。

４年間の学修全般をサポート

教務センター長
佐藤 博樹 教授

教務センターは、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づくカリキュラム・ポリシー（教育方針）に則って、学修に関する全般を入学から卒業までサポートする組織です。少人数教育という本学のメリットを最大限に生かし、語学学習・留学体験・資格取得・専門的知識の習得等により、北海商科大生にふさわしい実践的能力を向上させるよう大いに勉学に励んでください。

「学びの機会」の拡大整備に向けて

学術発展センター長
田辺 隆司 教授

当センターの業務は、公開講座の開催や図書選定等です。公開講座の目的は、本学の教育目標が「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことに置かれ、また学外の皆様にグローバル化する社会に対応した研究が行われていることを知っていただくためです。一方、図書選定は基本方針を「学生に読ませたい、見せたい」書物や視聴覚資料として実施しています。今後も学生諸君の知的好奇心を満たす図書の選定に力を入れたいと考えています。

高大接続の一体的改革に臨んで

入試･広報センター長
堂徳 将人 教授

第４次産業革命やグローバル化が一層進展する中、教育改革が加速しています。「高大接続の一体的改革(中教審答申)」は大学入試改革をインセンティブとして、高校と大学の双方が新時代に不可欠な「確かな学力」を保証することを求めています。転換期の入試広報の使命は、建学の精神と３つのポリシーを掲げ、共学ポリシーに共感する学生を募り、育むことにあると心得て、微力を尽くす進取の気概で取り組む所存です。

大切なのは自己の成長と目利き力

キャリア支援センター長
村松 祐二 教授

ここ５年、就職活動は売り手市場が続き、流通業等中心に求人倍率が軒並み上昇しています。報道では、選考開始の6月1日時点で６割超の学生に内々定が出る等、就職協定も霞む状況です。しかし、就職後に認識と現実との違いに悩む例は相変わらず見られ、自分に合う企業選びが益々重要になっています。学生諸君は当センターの就活支援活動に積極的に参加して下さい。

実りある大学生活を送るために

学生支援センター長
加藤 由紀子 教授

キャリア理論のスーパー博士は、人の一生にはそれぞれの役割が有り、その役割を果たすことで自分らしさを形成していくと説いています。その役割の一つに「学生」があります。皆さんが勉学とともに有意義な学生生活を送ることは、これからの人生に大きく関わっています。学生支援センターは、皆さんが充実した学生生活を送れるように、様々な支援を行なっていきます。

北海商科大学における国際交流

国際交流センター長
水野 俊平 教授

本学では昨年度も43名の学生が長短期の海外留学を果たしました。多くの学生が語学力の向上のみならず、自分の頭で考え、自分の力で行動する「生きる力」の向上を実感しています。新入生の２割が海外での留学を経験できるということは、まさに本学での学びの醍醐味ではないかと思います。今年度も中国・韓国の各協定校流校への短期派遣留学が計画されている他、短期研修団の来訪が予定されており、国際交流センターでは充実した国際交流事業の遂行に努力してまいります。

卒 平成28年度 業証書・学位記 授与式挙行

平成28(2016)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、中島公園に隣接された札幌パークホテルにて挙行されました。

今年度は大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程修了生２名、商学部卒業生165名（うち商学科100名、観光産業学科65名）に卒業証書・学位記が森本学長より授与されました。その後、教育職員免許状の授与、成績優秀学生の各学科１名ずつに表彰状・記念品が授与されました。卒業生を代表して商学科の増茂千聖(ますもちさと)さんが答辞を述べ、卒業生・修了生はご来賓や保護者、教職員の多数に見送られながら、学窓を巣立ちました。

卒業式後は同ホテル内で「卒業生を送る会」が催され、本学同窓会田口茂春会長、森本正夫学長が祝辞を述べ、教職員や卒業生の皆さんが大学生活最後の時間を有意義に過ごしました。（葛西）

写真上：卒業証書・学位記授与式と卒業生を送る会　下：卒業生集合写真

2017年度 入試概要 結果

平成29年度入学式

本年度の入試を巡る環境は、少子化や理工系（看護・医療等）学部・学科の人気が続くのに加え、首都圏等の大規模私立大学の定員増による「大学入試の易化」などが相まって、厳しいものとなりました。一方、「アジアの時代にアジアを学ぶ」を掲げる本学では、外国人観光客の大幅な増加が続く中において、国際ビジネスや国際観光が学べるとの注目を集める場面も見受けられました。

こうした状況にあって、本学では一般入試、センター試験利用入試、推薦入試を合わせた志願者416名となり、入学定員180名に対する倍率は2.3倍となりました。

本年度は入学定員増（150名から180名）実施して３回目の入試となりましたが、入試制度では昨年度からいわゆる複線化（一般入試、センター試験利用入試をそれぞれ２回実施）を導入しましたので、推薦入試を含め大きな変更を行いませんでした。

一般入試のうち、3教科3科目（2月8日）入試では138名（前年159名）が、2教科2科目（2月13日）入試では36名（前年39名）が出願し、各入試の平均得点率は概ね60%、実質競争倍率は1.1倍と、いずれも同様の傾向となりました。

センター試験利用入試では、3教科3科目（1期）入試と2教科2科目（Ⅱ期）入試に合計127名（前年174名）の出願となり、実質競争倍率は1.1倍（前年1.2倍）と前年を下回りました。

特別入試では、指定校推薦入試において57名、公募推薦入試において35名、併設校推薦入試において23名、合計115名の出願を得ましたが、いずれも過去最高の出願者数となりました。

本年度入試結果の大きな特色には、入学手続率の上昇があります。一般入試・センター試験利用入試の合格者は合計277名（前年301名）と減少しましたが、手続率では一般入試（2月8日入試）で65.4%（前年54.4%）をはじめ、センター試験入試を含めた全ての選抜区分で前年を10%程上回りました。その結果、入学者は231名と想定を超えた入学者を迎えることになりましたが、入学生に実施したアンケートでは「外国語の授業」「留学」「資格取得」などへの期待が多く見られ、入学者が本学の共学ポリシーに共感し、高い意欲を有することが窺われ、入学後の成長が期待されます。（堂徳）

就 2016・2017 年度 職状況について

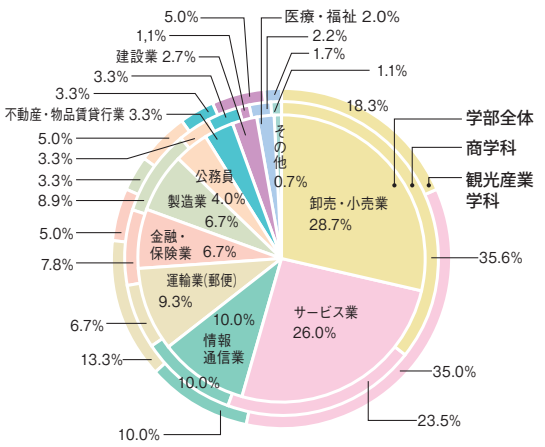
平成29(2017)年3月卒の就職状況は、比較的好調な企業業績にともなう積極的な新卒採用と、近年の逼迫した労働力の需給関係などにより、好調な結果となりました。5月1日時点の進路決定状況は、商学部全体で前年より1.4ポイント上がって98.0%の就職決定率となりました。学科別では商学科プラス1ポイントの96.8%、観光産業学科がプラス1.9ポイントの100.0%となっています。就職先の分野は、卸売・小売、運輸などの流通業や、金融・保険、宿泊・飲料サービス、情報通信などのサービス業を中心に、広い範囲に渡っていますが、就職先の本社所在地は全体の3分の2が石狩管内を中心とする道内に集まっています。

平成28(2016)年度の採用活動スケジュールは、3年生の3月に会社説明会など広報活動開始、4年生の6月に選考開始という、2015年に変更された日程が踏襲されたことで、昨年一部で見られた混乱は収まりました。しかし春の早い時期に企業説明会などの形で実質的な選考を進める企業が目立つのは、変わらない実情です。

キャリア支援センターでは、2017年度も3年生向けガイダンス・就職支援講座や4年生向け合同企業説明会（共催 北海学園大学）を開催するなど、引き続ききめ細かい支援体制を引いています。（村松）

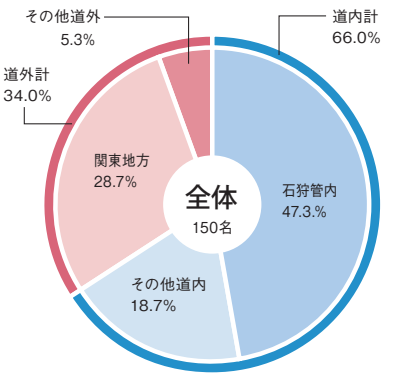
2017年卒/業種別就職状況

（割合は四捨五入による）
円グラフ内側から、学部全体、商学科、観光産業学科



2017年卒/本社所在地別就職状況

（割合は四捨五入による）



2年次所属学科選考ガイダンス

平成23(2011)年度から学部入試に移行したことに伴い、2年次第3セメスター開始時に所属学科を決定する作業は、今年度で6回目を数えます。学生の所属学科希望を最大限考慮し、両学科の定員に対して志望数が偏った場合には1年次の学業成績を基準に所属学科の選考を行うことを１年次から周知して、所属学科の選考作業を進めています。まず、3月23日の新2年次ガイダンスにおいて、所属学科決定までのスケジュール、定員に対する志望数に偏りが生じた場合の選考基準を1年次の成績とすること等を確認したうえで、両学科教育委員会委員長が学科の概要とカリキュラム・ポリシーを説明しました。

5月23日には第1回目の所属学科選考ガイダンスを実施し、両学科教育委員会委員長による学科選考に向けた説明の後、「ゼミナール見学希望届」をCoursePowerで受け付けました。6月6日～6月15日にかけて両学科のゼミナールを見学して志望学科選択の参考にしてもらい、6月28日に第2回目のガイダンスを実施した後、CoursePowerを利用して「志望学科届」を受け付け、選考作業に入ります。所属学科の発表は夏季休業終了時の9月12日を予定しています。（佐藤）

第１回学科選考ガイダンスでの観光産業学科の説明（5月23日）

優秀学生を表彰

伊藤昭男商学部長より表彰される3年生

新2年次と新3年次の学生を対象として、北海商科大学教育振興資金による学業優秀学生・課外活動優秀学生表彰を実施しました。本学の教育振興資金による学生の海外留学及び対外活動支援は以前より行ってきましたが、平成25(2013)年度からは学業および課外活動優秀学生にも表彰対象を拡大しました。平成29(2017)年度は3月23日のガイダンス時に新2年生3名、新3年生3名を表彰し、奨励金を授与しました。今後も奨励金等により、一層の学業成績向上や対外活動で成果をあげられるよう期待しています。（佐藤）

保護者説明会を開催

平成29(2017)年度の保護者説明会が、2年次向け5月27日(土)、3年次向け6月3日(土)、本学を会場に保護者を対象として開催されました。この説明会は、2年次向けが入試・広報、教務、国際交流、学生支援、キャリア支援の、各センター業務などを幅広く理解する目的で、また3年次向けはおもに就職活動に関するキャリア支援センターを中心に、毎年度学年単位でおこなわれています。27日の説明会では、冒頭で伊藤学部長より本学を取り巻く現況や今後の取り組みなどについて説明があり、それに続いて各センター長から各部局の事業説明や成果報告などの説明がなされました。

一方、3日の説明会ではキャリア支援センターから平成28(2016)年度の就職状況および2017年度の雇用市場環境、就活動向、就職支援体制などについて、説明がなされました。これに続いて、外部講師による講演「就職活動への親の関わり方」もおこなわれました。

講演終了後には、参加者からの質疑応答と個別相談の機会が設定されました。多くの参加者が熱心に耳を傾けた2日間となりました。（村松）

3年次保護者説明会

1月に帰国した派遣交換留学生、中韓からの交換留学生、教員と記念の集合写真

留学生修了式

森本正夫学長から修了証書を受取る交換留学生

２月20日㈪午前11時から、本学１号館８階の開発政策研究所にて平成28年(2016)年度交換留学生の修了式が行われ、森本正夫理事長・学長から中国山東大学威海校・煙台大学・韓国大田大学校からの交換留学生13名に修了証書が授与されました。

これに先立ち、10時から405号教室で韓国・中国の留学生により、留学成果発表会が行われ、教職員や日本人学生の前で１年間の留学の成果と思い出を発表しました。12時からは２階の自由学習コーナーにて軽食を摂りながら、留学生と日本人学生との交流会が行われました。13時からは再び405号室に場を移し、本学から中国・韓国へ派遣され、6ヶ月の留学を終えて１月に帰国した本学の１年生による留学報告会が行われ、中国と韓国での留学の成果と思い出を発表しました。（水野）

交換留学生歓迎会開催

4月15日㈯午前11時半から、本学地下１階の自由学習コーナーにて、平成29(2017)年度留学生交流会が実施されました。協定校である煙台大学・大田大学校からの交換教授の先生、今年１年間本学に留学する協定校からの留学生（煙台大学６名・大田大学校２名）と教職員、大学生、日本人学生が参加しました。今年は例年に比べ参加者数が若干減ったものの、総勢で70名を越える参加がありました。交流会では新任の伊藤商学部長、同じく新任の阿部大学院研究科長の挨拶に続き、国際交流センターの教員紹介、協定校からの交換教授である張勝利先生（煙台大学）、任相一先生（大田大学校）の紹介、留学生・大学院生の紹介、記念写真の撮影などが行われ、軽食を摂りながら楽しい交流のひと時をもつことができました。（水野）

交換留学生歓迎会と記念集合写真

●交換留学生紹介●

今年度の交換留学生です。両大学から抱負を語ってもらいました。

中国 煙台大学から

左から、
石一昌Shi Yichangさん
王豫琨Wang Yukunさん
卢李怡Lu Yiさん
李斐Li Feiさん
任雨薇Ren Yuweiさん
王富强Wang Fuqiangさん

煙台大学●任 雨薇さん

まず、留学という貴重な機会を下さった北海商科大学、またいつもお世話になっている北海商科の先生方、親切にしてくれている学生たちに対して、心から感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございます。留学に来て、日本をもっと知るようになりました。そこで私の視野が広がってきました。物を見る角度も増えてきました。私はこれからも日本語をもっとよく学んで、そしてそれを生かして中国より進んでいる日本のいい事について学び、もっと頑張って行きたいと思います。

韓国 大田大学校から

左から、
金炫宇Kim Hyeonwooさん
梁準秀Yang Junsooさん
（北海学園大学留学生）
崔根英Choi Geunyeongさん
李蕙璡Lee Hyejinさん
（北海学園大学留学生）

大田大学校●金 炫宇さん

「入学の時から目指していた留学のチャンスを4年生になってやっと掴むことができました。大学生活の最後、日本で留学できてよかったと思います。最後の年であるだけ北海商科大学での経験を将来活用できるようにいつもより頑張りたいと思います」

10
11 12
13

地元・豊平地区町内会連合会の協力による餅つき体験にて、煙台大学交換留学生とレスブリッジ大学交換研修生、本学サポート学生で

本年度も学生たちの地域交流始まる

新年度に入り、北海商科大学の学生と地域の交流が始まりました。

4月15日には、キャンパスに隣接する旭水町内会との交流会が開催され、本学の留学生8名を含む学生と教員が、活動拠点である旭水会館を訪問しました。

この会館には豊平川の氾濫防止と水車の安泰を祈願して、明治20(1887)年に建てられた「豊平川神社」があります。当日は、町内の方々による春の例大祭が執り行われており、留学生らも参列して日本の祭礼を見守りました。祭礼の後は、学生たちと地域の方々とで「なおらい（祭りなどの儀式の終わった後、供物などを参列者一同で分けて食べる宴会）」のテーブルを囲み、楽しい時を過ごしました。留学生たちにとっては、地域の方々の温かさに触れ、意義ある留学生生活の一歩になったと思います。

5月には2回にわけて日本人学生のサポートのもと、留学生の地域巡検を行ないました。豊平地区は、明治以前から通行屋(旅行者の休憩・宿泊施設)や豊平渡船場があったところで、明治時代に入り商業や交通の要所として栄えたところです。こうした歴史を持つ豊平地区を知り、今後とも積極的に地域の方々と交流を続けていきたいと思います。(加藤)

写真上：豊平川神社例大祭で旭水町内会の皆さんと交流する中韓の交換留学生
下：豊平地区町内会連合会の花苗植栽活動(5月28日)に参加した環境ボランティアサークルと交換留学生

レスブリッジ大学との提携交流

左から、ホストファミリー紹介、地元・豊平地区町内会連合会の協力による餅つき体験、日本文化研修の講義

６月５日、カナダ・レスブリッジ大学から14名の研修生がリチャード・ミュラー先生の引率で来訪し、北海学園大学と合同で受け入れを行いました。研修生は日本の家庭にホームステイをしながら、本学の校舎で日本語研修、日本文化研修を受講するほか、餅つきなどを体験し、登別・函館への研修旅行、北海道開拓の村・アサヒビール工場・よさこいソーランの見学などに参加します。引率のミュラー先生は「札幌は素晴らしいです。私は学生からよい評判だけを聞いています。彼らはホストファミリーの家庭でとても貴重な経験を楽しんでいます」と札幌の印象を語ってくれました。また、札幌の食べ物については、「この都市でまずい食事をとるのは不可能。大学のカフェテリアですら非常においしいです。学生はホストファミリーの家庭料理についても素晴らしいと言っています」。日本人学生のサポートについては、「学生たちはサポート学生といかに楽しい時間を過ごしたかを話してくれました。サポート学生の協力がなかったら、こんな楽しい経験はできなかったでしょう」。

交流学生として来訪したレスブリッジ大学３年生の朱晗宇さん(Hanyu zhu､電算学科)は「札幌は非常に美しく、清潔で、北海道の雰囲気が豊かにあふれる都市だと思いました」と第一印象を語り、「毎朝と毎夕の通勤時間は混雑していますが、非常に秩序が保たれています」とも。ホームステイ先での生活については「ホストファミリーのみなさんが私に対して多くの配慮とお世話をしてくださり、私を非常に感動させています。札幌の人の旅行者に対する親切さを感じることができました」。北海道の食べ物については「まだ北海道の食べ物はあまり食べていないですが、ホストファミリーの家庭のお母さんが作ってくれたご飯が非常においしくて、盛りだくさんです。今日食べたカレーも非常においしくて、食べ終わってからも余韻があります」。そして、「日本の学生の皆さんは、私たちに必要不可欠なサポートをしてくれています。心から感謝したいです」と語ってくれました。（水野）

レスブリッジ大学長期留学生

有働 美月●商学科４年

現地で行ったコンサートで

2017年4月より、協定校のカナダ・レスブリッジ大学に9ヶ月間の長期留学に来ています。

緑は沢山あるが、遊ぶところはないと聞いていたレスブリッジへと向かうバスから見た眺めに感動したのを覚えています。草木があまり生えない幾つもの丘が広がる土地をクーリーと呼びレスブリッジでは簡単にみることができます。日本では珍しい景色なので当初は大変印象深いものでした。

平日受講しているAEPクラスでは、様々な国籍の人たちと英語を学んでいます。授業だけではなく、土日のアクティビティも充実しており楽しみながら英語を学んでいると実感しています。

ホームステイ先では4人の子供がいるため英語で会話をする機会が多い環境で過ごしています。どんなに些細なことでも気になったことは質問してみるという自分なりのルールを作り、英語の練習とホストファミリーと良い関係を築けるよう意思の疎通を大切にしています。 9月からはレスブリッジ大学の授業を受けることになり、高い英語力が必要となるのでしっかりこの期間中に準備をしていきたいです。

レスブリッジ大学交換教授としての経験と成果

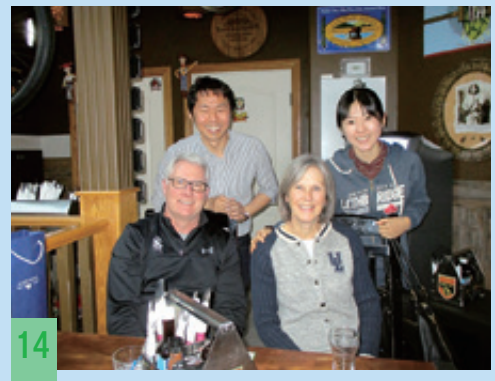
李 炯直●准教授

2016年12月26日カナダ・レスブリッジ市到着から2017年4月22日カナダ出国までの約4ヶ月間現地に滞在し、北海学園（北海商科大学）から交換教授としてレスブリッジ大学で教鞭をとった経験における成果を３つにまとめ紹介いたします。

まず一つ目は、担当科目「Japan and the Japanese」をカナダ人学生に教えたことです。開講日は毎週火曜日と木曜日、時間は午後12時15分から1時30分までの75分間でした。全24回の講義のうち、一回の休講や遅刻もなく予定時間通りに行うことができました。受講生数は40名でしたが、そのうち日本語を勉強したことがある学生や、日本での経験を持つ学生は5～6人程度で、ほとんどの学生から「日本と接する機会はこの講義が初めて」と言われました。このような学生を対象に、「日本・日本人・日本文化」を教えると言っても分野は大変幅広いため、毎回講義で何について取り上げ、どうやって面白く、そして理解しやすい授業内容にするか、いつも悩みながら授業準備に時間をかける毎日でした。特に私は通訳者なしで全ての講義を英語で行ったので、結果として、通訳者を介した講義よりも授業内容や準備時間が倍以上必要だったと思います。その準備は大変でしたが、日本を初めて学ぶカナダ人学生に日本に関する幅広い知識を伝えることができたことは、この交換教授事業における一番の成果だったと思います。

二つ目は、大学主催の様々な公式行事やイベントに参加したことです。今年2017年はレスブリッジ大学創立50周年であり、新年早々からほぼ毎週のように、祝記念イベントとしてスポーツ大会や音楽、飲食パーティなど様々な行事が1年中開催される予定です。私も滞在中は、学長のMike Mahon先生をはじめ同僚の教職員から招待されるイベントに積極的に参加しました。特に記憶に残るのは、レスブリッジ大学国際センター主催の「International Dinner Party」に参加したことです。学長のMike先生が「年間行事の中で最も楽しめるイベントの一つだ」と称賛するぐらいですが、実際に私も国際交流はもちろんのこと、様々な国の料理を楽しむことができました。こうしたイベント参加によって、北海学園と長年交流を続けているレスブリッジ大学の伝統や文化を理解できたことも、交換教授として大変貴重な成果でした。

最後に三つ目ですが、レスブリッジ大学の教職員だけでなく、そのご家族や友人との交流も大変深くなったことです。毎週末、時には平日でも、色々な大学関係者やそのご家族、友人から食事会やイベントに招待されました。特に、北海学園での交換教授経験を持つ同僚教員からの誘いが多かったです。中でも私の現地生活を支える「Mentor」役のSteven Urquhart先生は、自宅にも頻繁に招待してくれて、奥様のWendyや息子のTristonと娘のFionaとも大変仲良くなり、まるで私自身が彼の家族の一員のように感じておりました。このように、レスブリッジ大学教職員と北海学園教員が深い友情と絆を築くことができたことは、もう一つの成果であったと信じております。



レスブリッジ市ダウンタウンにあるレストランにて、レスブリッジ大学学長ご夫妻（手前）と李先生ご夫妻

14

留学だより　韓国 大田大学校留学

15

●商学科４年　小野 彩夏

私は現在、1年間の交換留学生として大田大学校に留学しています。１年時の半年間留学とは違い、韓国の大学生と一緒に授業を受けている為、日本にいた時よりも身近に韓国語に触れる事ができ、刺激を受けながら留学生活を送っています。大田大学校には日語日文学科という日本語を学ぶ学生達が在学しているので、学科の行事がある度に私達日本人留学生を招待してくれます。そのお陰で心配していた友好関係も一気に広がり、沢山の思い出を作る事が出来ています。他にも国際交流チームでは外国人を対象とした運動会や様々な行事を運営している為、他の外国人留学生とも交流を深める事が出来ます。留学をする事で語学の向上は勿論、韓国の文化を直接肌で触れる事が出来るので、毎日学ぶ事や気付かされる事が多いです。これからも積極的に様々な経験を積み、悔いの無い留学生活を送っていきたいと思います。

●観光産業学科３年　辻村 真里子

１年次に半年間留学して以来韓国での留学生活は2度目ですが、授業を受ける環境は語学堂(語学専門授業)から、韓国の学生と一緒に受ける授業体系に変わったため、とても新鮮です。韓国語の向上に伴い、可能範囲も広くなり、今回の1年留学では旅行などに行き、語学の他にも韓国全体の地域、文化など幅広い分野について知っていければと思っています。また、私が海外での留学生活で求めていることの一つでもありますが、その国の学生たち以外にも留学生として来ている、その他の国の学生たちとの交流が魅力の一つです。大田大学校はアジアからの留学生が多いですが、同じアジアでも文化の違いがとても多いです。言語が違えど、一緒に韓国語を勉強しながら意思疎通をすることにとても魅力を感じています。同時に、国際的コミュニケーション能力が上がっていくことも感じられます。1年間の留学生活で韓国語の向上はもちろん、社会的な能力を身に着けていきたいです。

16

昨年度の表彰式の様子

高校生懸賞作文を募集

平成24(2012)年度より高校生を対象とした懸賞作文の募集を行っており、今年度で６回目の開催になります。この懸賞作文は高校生の素直で鋭い観察眼で現在の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、北海道内の高校生を対象として募集します。

作文のテーマは、①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット、②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ、③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産で、これらの中からの一つのテーマを選択していただきます。締切は平成29(2017)年9月20日㈬です。応募要項、パンフレットは、6月下旬に道内の各高校に郵送するとともに、北海商科大学のホームページでもお知らせします。

入賞者には森本学長より、表彰状と副賞（図書券）が手渡され、審査講評と懇親会を開催する予定です。お知り合いの高校生に是非ご案内ください。（橋元）

研究のいま

「日本経済史における サハリン島」

●竹野 学 教授

サハリン島(樺太)における日露国境線図(写真右)と国境界木標 ── 北海道庁樺太関係資料館より

私の専門分野は日本経済史です。研究テーマは、戦前の日本が領有していた植民地における日本人や日本企業などの経済活動です。とりわけ私が中心的に調べてきたのは、北海道の北に位置するサハリン島のことです。この島は日露戦争後の1905年に、北緯50度以南が日本領南樺太という日本の植民地の一つになります。私の研究は当初、この南樺太に移住した日本人の経済活動を明らかにすることからスタートしました。

約100年前の1920年代の日本は、今とは異なり年間の出生数が100万人を超え、「過剰人口」の意識が広く社会に共有されていました。当時の政府は人口政策の一環として、植民地への移住を推進します。南樺太は移住の余地が大きいとされ、同地への農業移住政策が本格化します。しかし、この移民の農家経営と樺太庁の移民政策とは大きく対立しました。つまり移民の移住動機である生活向上の欲求と、自給自足による耐乏生活を合理的とする樺太庁の政策とが正面衝突したのです。その結果、1920-40年代の南樺太の農業は各主体が予想もしなかった方向で展開します。私の研究では、農家経済や移住をサポートするために設立された各会社の経営の分析などから、その経緯を詳しく説明しました。

最近は、日本とロシア(ないしソ連)との間で生じた戦争や外交交渉によりサハン島の境界線が幾度か変更され、それに伴って生じた人口移動のことをも研究しています。サハリン島では、1904-05年の日露戦争、シベリア出兵末期の1920-25年に行われた北サハリン保障占領、1945年の日ソ戦争という、3つの軍事行動に関連して両国の境界線が移動しました。そしてそれらに伴って、進出と追放や引揚げという人口移動が幾度も発生しました。なぜかというと、日本もロシア(ないしソ連)もサハリン島を、人口希薄な土地に本国人を移住させる「移住植民地」として扱っていたからです。そのため両国とも、新たに支配下に置いた領域から他国民を追放し、そこに自国民を入植させる方法を共通して採用しました。この際の引揚げという「強制された移住」現象には、その領域の社会構造と新たにそこを支配下に置いた側の経営方針とが影響していたのではないかという仮説を、1945-49年の引揚げのケースから論じてみたところです。

こうして日本の南樺太経営を時系列で見る縦糸と、日ロ(ソ)両国による分割領有体制の変化という横糸とを合わせることで、サハリン島の20世紀前半の歴史を立体的に理解することが出来ると考えます。さらに加えて言うなら、南樺太移住者の多くは開拓政策途上の北海道から輩出され、また南樺太引揚者の大半が日本の戦後復興を支えた北海道に定住しました。これまで北海道を日本経済との関係の中で考える研究は存在していました。私としては、その関係の延長上に南樺太を置くことで、より広い地域・国際関係の中で北海道を考え直す研究が可能だと考えております。そうした視角は、現在の北海道を考える上でも重要であると考えます。そろそろ私のこうした考えを一書にまとめ世に問う時期に来ているとは思うのですが、残念ながら大学の業務が忙しくなかなか実現できません。ですので、とにかく早い時期にこれまでの研究をまとめた著書を出したい、というのが私にとっての「研究のいま」というところでしょうか。

17 18 19 20

モンゴル文化教育大学との学術交流シンポジウム

本学・相浦宣徳教授による講演

平成28(2016)年12月5日㈪13:00から学校法人北海学園（本学と北海学園大学）とモンゴル文化教育大学との学術交流シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、森本正夫理事長（本学学長）の挨拶に続き、モンゴル文化教育大学の牧原理事長、トムルオチル学長にご講演（基調講演）いただきました。その後、北海道総合政策部、北海学園大学、北海商科大学、モンゴル国農牧業科学研究所から4テーマの講演が行われました。本学からは阿部秀明教授と相浦宣徳教授が参加し、相浦教授が「北海道を支える物流について～北海道物流における課題を通じて皆さんにお伝えしたいこと」というテーマで、「道外の他地域に対する北海道の特異性」、「物流に関する北海道内の地域性」を踏まえ、物流の在り方について講演しました。（相浦）

JR貨物グループ安全発表会

「JR貨物グループ安全発表会［日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)北海道支社］」が平成29(2017)年2月17日㈮にホテルエミシア札幌で開催され、本学から、菊池大樹君、佐々木悠河君、渡邊隆雄君が参加しました。100名近い物流の専門家を前に、菊池君、佐々木君、渡邊君は、物流を専門に研究している学生の観点から、「私たちが愛する北海道物流～日本全国をつなぐ架け橋～」というテーマで、北海道における物流の位置づけ、輸送モードが限定される北海道・本州間の物流の特殊性や重要性、青函共用走行を含む今後の課題などについて講演しました(写真)。堂々としたすばらしい発表に対し、会場を埋めた参加者から盛大な拍手が送られていました。（相浦）

ゼミ訪問

◆田辺隆司 教授 観光研究ゼミナール◆

観光産業学科では、観光ビジネスに必要な幅広い知識やコミュニケーション能力を系統的、学際的に学びます。2年生後期（第4セメスター）からは、習熟度や応用力をさらに高めるため観光研究ゼミナールが開講します。今回は田辺隆司教授のゼミナールを取材しました。

「ファサードの魅力度を測る」というのが今期、田辺隆司教授のゼミが取り組んでいる研究テーマです。「ファサード」とはフランス語で「建物の正面」の意味。私たちは街歩きをしていて、その店舗に入るかどうか決める際、意外に重要視しているのが外観です。店舗の外観や外装を工夫し、魅力のあるものにするなら、お客さんを大幅に増やす可能性があります。その要因を探ろうというのです。

田辺隆司教授が専門としている研究分野のひとつが観光資源論です。観光資源に対する印象評価や、観光地のイメージ形成に関する研究を中心に取り組んでいます。「ファサードの魅力度を測る」というテーマも、そうした取り組みの一環ということができます。また近年、観光産業の振興や地域おこしの手がかりとして、新たな観光資源の発掘や見直しが各地で進められています。ゼミの研究テーマにはこの観光資源の発掘、見直しという意味も込められています。

ゼミではまず、店舗入り口のデザインや色彩、店舗前空間におけるディスプレーの効果など、魅力度の基準を調べ、それをもとに札幌中心部の狸小路商店街でフィールド調査を行っています。ここで狸小路を選んだのは「中心街地」の問題もゼミの研究テーマに含まれるからです。最近は郊外に広い駐車場を備えた大型商業施設が次々と誕生し、「中心市街地」の商店街の苦戦が伝えられています。この問題を探ることもテーマに含まれていました。

ゼミ生が2、3人でグループを作り行ったフィールド調査は、店舗入り口の写真撮影です。居酒屋、焼肉店、ラーメン店、薬局の4業種を選び撮影しました。その写真を使用し、意味微分法（セマンティック・ディファレンシャル法）でアンケート調査を行いました。意味微分法というのは聞き慣れないものかもしれませんが、「明るい」と「暗い」など対立する形容詞を用い心理的なイメージを判定する方法で、企業イメージの評価や測定にも使われています。取材に伺った日は、アンケート結果をパソコンに入力中でしたが、今後、その統計分析をもとに「ファサード」の重要性を考察し、リポートをまとめます。

今期のゼミ生全員が3年生で、男子学生が3人、女子学生が10人の計13人。松田優太君（下写真内左）は「座学だけではなく教室の外に出て勉強できるのがこのゼミの魅力」といいます。松尾朱寧さん（下写真内右）は教授の指導が「丁寧で親切」。ここに尽きると語ります。田辺隆司教授は「観光資源の可能性について統計解析によって把握し、情報活用力を高めること」が、ゼミの目的であることを強調します。

東アジア社会のダイナミズムを読む

平成29(2017)年度 前期公開講座

■日時：平成29年5月27日・6月10日・6月24日・7月8日・7月22日（全５回、10：30～12：30）

■場所：北海商科大学1号館８階会議場

■参加対象：一般市民（含む学生）

「知」の空間への誘い

平成29年度前期の公開講座は、「東アジア社会のダイナミズムを読む」をテーマとして、5月27日㈯から7月22日㈯まで、多彩な分野にわたる5回を予定しています。その講師陣は、観光・経済の分野で第一線に立たれている専門家の方々をはじめとして、本学の協定校である中国および韓国からの交換教授、さらには本学の教授から構成されています。

近年の社会では、かつてないほど生涯学習へのニーズが高まり、いつでもどなたでも学べる場として、大学はより開かれたものに変容しつつあります。本学は時代の趨勢をよく読み取り、地域の皆様のご期待に応えられる講座を今後とも開催していきます。どうかお気軽にご出席くださいますようお願い申し上げます。（田辺）

写真左：第2回公開講座の講師（左：本学交換教員の大田大学校・任相一教授、中：大韓航空札幌支店長・寺倉詢二氏、右：コメンテーターの本学・水野俊平教授）　写真右：任教授による講義

中国語コンテストで金・銀・銅を獲得

第16回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道地区予選大会が、5月27日、札幌大学孔子学院で行われ、本学の3年生寺島桜河君が金、本間麻友さんが銀、秋吉美和さんは銅に輝きました。寺島君は7月に中国で行われる世界大会本選に北日本代表として出場する予定です。これで本学から日本を代表して本戦に出場するのは7人目となります。

コンテストのテーマは「未来を明るくする」でした。寺島君は将来、中国人の就職希望が叶えられる就職サービスセンターを立ち上げるという夢を、本間さんは将来、国際化人材になりたい夢を、秋吉さんは、日本の化粧品を愛用する中国人の市場を開拓したいという夢を持って生きる自分の将来像を語りました。彼らは単に原稿を暗記して述べるのではなく、自分の本音を打ち明けたように、人の心を打ちました。特に秋吉さんは、スピーチの抑揚があり、美しく聞こえるところは審査員に高く評価されました。3人とも審査員からの質問に正しく答え、実力を示しました。本学の出場者が、当大会で金・銀・銅すべての賞牌を獲得したのは、初めてのことです。

なお、今回、学生に指導していただいた中国から来日した交換留学生の皆さんには、心から厚く御礼を申し上げると同時に、積極的にスピーチコンテストに参加した学生に感謝の意を表したいと思います。皆さんよく頑張った！（蘇）

韓国語能力試験

4月16日㈰に、韓国・国立国際教育院が主催し、韓国大使館と公益財団法人・韓国教育財団が主管する韓国語能力試験が本学の１号館にて実施されました。本学からも韓国語を履修した1・2年生が主に中級（３級～６級）の試験に臨み、熱心に問題と取り組みました。結果は6月中旬に郵送にて通知される見込みです。なお、昨年までこの試験は4月と10月にのみ実施されていましたが、今年は7月にも本学を会場に実施されます。（水野）

サークル活動紹介

本学には、体育系サークル、文系サークル、そしてサークル連合などの運営団体が3団体あり、前年北海道地区大学軟式野球連盟で、「１部リーグ昇格」を果たした軟式野球部をはじめ、地域活動に参加している環境ボランティアサークルなどが活動を行なっています。

新年度となり、入学式翌々日の4月5日の新入生ガイダンス後、1号館2階の自由学習コーナーと2号館1階の多目的ラウンジにおいて、各サークルなどの代表からサークル紹介が行なわれました。新入生は、興味があるサークルのテーブルを回り、サークルの代表者などから、活動内容や日程などの説明を受けていました。

サークル活動などを通じて、色々な人たちと出会い、多様な価値観に触れることは人としての成長につながります。相手の思いを理解し、自分の思いを伝え、共通の目標に進んでいくためのコミュニケーション能力は、こうした活動などを通じても養って欲しいと思います。（加藤）

平成29年度 サークル一覧	
体育	OSB（アウトドアスポーツビジネスサークル）
体育	ダンスサークル（ドルディップ）
体育	テニスサークル
体育	軟式野球部
体育	バスケットボール部
体育	バレーボールサークル
体育	フットサル部（REGISTA）
体育	山岳同好会
体育	陸上競技部
文化	英語サークル
文化	会計サークル
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	教育研究会
文化	軽音サークル
文化	中国語サークル（歓々喜々）
文化	ツーリズモ研究会
文化	どさんこ広報サークル
各種団体	サークル連合執行部
各種団体	体育祭・大学祭実行委員会
各種団体	卒業アルバム制作委員会

写真上から、サークル説明会、環境ボランティアサークルが参加した豊平地区町内会連合会の花植え活動

OB・OG NOW！

2004年北海学園北見大学商学部卒業
●株式会社山崎火薬銃砲店
副社長 山崎 靖允さん

花火の業務案内

大正12年の創業で、今年94年目になる株式会社山崎火薬銃砲店の副社長を務めています。創業家の長男ということで、ゆくゆくは会社を継いでいくという意識がありました。札幌商業高校(現北海学園札幌高校)出身で、少しやんちゃな高校時代でしたが、ずっと札幌で育ってきましたので、一度は親元を離れてみたいという気持ちもあり、系列校で推薦入学制度のある北海商科大学の前身である北見大学に進学しました。

大学では阿部先生や柳川先生の研究室を良く訪ねてコーヒーを入れていただいたり、講義では聞けないような様々なお話に刺激を受けました。３年生の時には柳川先生の指導のもとで、北見市に近い紋別市のまちづくりプロジェクトに関わりました。商店街活性化のための調査研究を行い、市への提言にまとめました。域学連携の先駆け的な活動だったと思います。身近に大人と接する良い機会に恵まれましたし、多くのことを先生方から学びました。北見では初めての一人暮らしでしたが、下宿生活で多くの友人もでき、韓国人留学生との交流など、学生時代の繋がりが現在もあり、貴重な財産となりました。

大学時代の思い出について語る山崎靖允さん

無事に卒業し、就職氷河期時代と言われていましたが、すぐには親の会社には入らず、まずは外で経験を積むことにしました。一番きつい仕事をと思い、東京の外食企業に就職し、１日15時間の勤務をこなしました。その後、家族が東京で経営していた飲食店を手伝わなければならなくなり退職し、その経営に関わりました。

７年間、仕入れや管理など全てに関わる経験をまた積むことができました。札幌に戻り、山崎火薬銃砲店に入社、２年後に常務となり、現在は副社長として会社全体の経営責任を負っています。創業100年も近く、北海道を基盤に仕事をさせていただいておりますが、最近では北海道新幹線のトンネル工事(産爆という火薬を扱う業務）での受注や建設資材を扱う商社的な業務が柱となっています。皆さんの身近なところでは夏の風物詩花火大会の花火の製作、打ち上げなども主要な業務で、道内の６割のシェアがあります。火薬を扱うので、一つ一つの仕事の完成度はもちろんですが、安全な業務遂行のために人間関係が大事です。社内でもそのようなことに目配りできるような、総務的業務に適任な人材配置を重視していますが、最近では後輩である商科大の卒業生が入社、活躍し頼もしく思っています。関連会社を含め100人近い社員と協力企業なども多い現状で、その全体に対する責任は大きくプレッシャーも感じます。大学で学んだことに通じますが、失敗を恐れず、また何ごとも楽しむことを忘れずに仕事に向き合いたいと思います。

新任教員 交換教員紹介

■交換教員

任 相一
イム サンイル

私は29年前(平成元年)の熊本学園大学に続いて二度目に北海商科大学に交換教授として参りました。単なる旅行ではなく、九州と北海道に半年以上生活するということは、日本人でもあまりないことことでありますが、外国人の私がそうした経験をしております。見方によれば幸運児だと言わざるを得ないでしょう。このような幸運をくださった両校の関係者のみなさん、また国際交流室のメンバーにも感謝を申し上げます。

私は社会科学の中で最も理論的な学問である経済学と、実用性が最も高い学問である法学を修めました。経済学博士であり法学修士でもあります。また米国のイリノイ大学で１年間研究をした経験もあります。『スポーツ経済学』、『統計学』、『スキンシップ経済学』、「孔子とケインズを通して学ぶ経済学』、『経済経営数学』など、８冊の著書があります。経済学理論を基に社会現状を分析し、説明することに多くの関心を持って研究しています。

外国語の勉強は誰にとっても非常に難しいことです。書いて、話して、覚える過程を反復しなければなりません。王道はなく、特別な忍耐と努力が必要です。しかし、ある水準に到達すれば、知識と経験、開放的な思考と知恵を得ることができます。一石二鳥の効果を得ることができるのです。学生の皆さんの頑張りを期待します。

ここに来て、北海道の美しい自然と歴史、親切さ、アジア旅行客(韓国、台湾、中国)の多さ、そして大田大学校への留学を希望する学生が多いという事実を新しく知るようになりました。「アジアの時代にアジアを学ぶ」というスローガンにも頷けるようになりました。私もまたこの目標に向かって、微力ではありますが、協力を惜しまない所存です。笑顔になれる北海商科大学に期待しています。

■新任教員

田村 亨
タムラ トオル

流通、地域開発、交通などの講義を担当し、立地適正化計画による商業空間づくりと空港民営化がもたらす新しい航空ビジネスづくりの研究をしています。

私は、大学卒業後、すぐに大学教員の道へ進みました。このため、実学である商学や流通論を教えるうえで、理論と実社会との距離をどのように埋めるかということに努力をしてきました。その方法は、自分でよく考えることとよき友を持つことです。この度、商科大に就職することができましたので、学生さん達には、授業やゼミをとおして学問の奥行を伝えるとともに、魅力的な私の友人と会って頂く機会を作り「実社会で行動できる人間になる方法」を教えてもらうように致します。

話は変わりますが、私の好物はお蕎麦と焼酎を少々。これらを美味しくいただくためにスポーツ・ジムに通って汗を流しております。もしも、ジムでお会いした時は気軽に声をかけてください。

■新任教員

見附 陽介
ミツケ ヨウスケ

「哲学と社会思想」、「市民社会と自由」など、哲学・社会思想関連の講義を担当しています。専門は現代思想を中心とした社会哲学および社会倫理学です。平成22(2010)年に北海道大学大学院文学研究科で博士号(文学)を取得し、その後、札幌大谷大学、北海道大学、北海学園大学などで非常勤講師として教育経験を積んできました。

哲学の意義は、世界と自分を捉え直すところにあります。大学という空間は、その得難い知的営みを許す数少ない場の一つと言えます。職業人・専門人であると同時に、全ての人は一人の人間として社会と自分の生に向き合わざるを得ません。そのための土台を形作るのが、哲学であり思想ではないでしょうか。

本学が学生皆にとって社会人として、そして人間として成長するための場となるよう、学生と正面から向き合い、その広く旺盛な知識欲に応えられる教員でありたいと願います。

■交換教員

張 勝利
ジャン ションリー

山東省煙台大学人文学部学部長補佐、准教授、修士課程指導教員。2007年復旦大学文学博士、2010年同大文学歴史研究院ポストドクター、2015年南京大学訪問研究員。

大学ではマルクス主義文学理論、古代文学理論、西洋文学理論、現代西洋文学理論、中国伝統文化、国語、文芸創作などを担当しています。

研究は、文学理論や中国文学批評史、古代哲学および文化批評を専門としています。著書に『現代的視野からの中国古典文学研究』があり、論文「王夫之（おう・ふし）の詩的言語」によって山東省社会科学研究優秀成果賞を受賞。

25 26 27 28

BOOKS NOW！●図書館においでよ!!●

附属図書館は、昭和52(1977)年に北海学園北見大学の開学に合せて開館し、その後、平成18(2006)年4月、札幌への移転、名称変更に伴って、北海商科大学附属図書館として新たに誕生しました。皆さんの研究・学習を支援する為、アジア地域を中心とした商学関連の資料を収集しています。同法人の北海学園大学とも連携し両校の利用者により多くの資料を提供出来るように努力しています。（西田）

図書カウンターの安永さん(左)と前田さん(右)

・静かに勉強したい人
・色々な情報を集めている人
・時間潰しにぷら〜っと
・DVDを見に
・読書をしたい人
・友達と図書館で待ち合わせ etc.

来たれ、情報の宝庫・附属図書館へ！
図書館は君たちを待っています。

◆コーナー紹介◆教員お薦め本

図書館ゲートの左前方に「教員お薦め本コーナー」が有ります。その名の通り教員が学生達にぜひ読んでもらいたいお薦めの本を集めたコーナーです。お薦め本は、教員自身の専門分野に関わる本だけではなく、学生時代に身につけて欲しい教養に関する本なども含まれています。気になった本をその場で手に取って内容を確認したり、読んだりする学生達の姿がよく見られます。このコーナーは、所属している学科以外の先生方のお薦め本を知る絶好の機会です。今後もぜひご期待ください

◀お勧め本『日本の伝統行事』(村上龍著、講談社刊)と柳川博先生

@学生相談室ニューズレター5

「ワクワク時間」

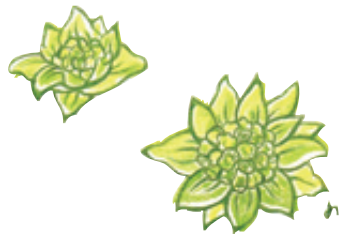
学生相談室　カウンセラー　小林 美穂子
E-mail：soudan@hokkai.ac.jp

みなさんにとって楽しい時間、ワクワクする時間って、どんな時間ですか？　仲間と美味しいものを食べているとき、何気ないバカ話をしているとき、大好きな音楽を聴いているときなど、人それぞれ、楽しみの時間は、いろいろだと思います。

たまに、「楽しい時間なんて、ありません」という人もいます。本当でしょうか。確かに、辛いことが重なったりすると、楽しいことも楽しめなくなってしまうこともあるかもしれません。そういう私も、長い冬にへこたれたり、仕事がしんどいなぁ、と感じるときがあります。しかし、思いがけなく、今年の春にめちゃめちゃハマったものがあります。それは、“ふきのとう”採りです。これまでは、山菜採りなんて、“自分には一生関係のないこと”くらいの世界でした。春になれば、あちこちで見かけるのに、まったく眼中にありませんでした。それなのに！です。この春は、週末になると、“ふきのとう”探しに出かけ、見つけたら夢中になって摘み、久しぶりのワクワク感覚を思う存分、味わいました。こういう時間は、悩みも疲れも吹っ飛んでいます。さらに、摘んできた食材で、ふき味噌を作ったり、天ぷらとして味わったりと、楽しみはさらに広がりました。自分でも不思議です。

何が言いたいかというと、楽しみって探せば、意外と身近にあるのです。しかも、このように“食わず嫌い”をしていることさえ、あるのです。何に夢中になるかは、冒頭で述べたように千差万別ですが、ワクワク時間を増やして、楽しい学生生活を送りたいですね。

しかし、そうは言っても、なかなか自力では見つけられず、「なんだかなぁ…」「そんな気力ないよ」って思ってしまうこともあるかもしれません。そんなときは、一人で悩まず、どうすればいいのか一緒に考えましょう。先ずは、上記のアドレスに、カウンセリング申込みの連絡をくださいね。



行事予定

昨年度の北海商科祭（ダンスサークル）

6/25日	第1回オープンキャンパス	9/15金	1年次履修登録
6/28水	第2回所属学科選考ガイダンス[2年次]	9/16土	2年次履修登録
6/30金	志望学科届提出期限[2年次]	9/19火	3年次履修登録
8/4金	前期講義終了		4年次履修登録
8/5土	夏季休業開始	9/20水・21木	履修登録訂正日(全学年)
8/6日・7月	第2回オープンキャンパス	9/21木・22金	北海商科祭準備日(予定)
8/7月	成績開示開始、	9/23土	北海商科祭(予定)
	成績・採点異議申し立て受付	9/25月	後期講義開始
8/8火	成績・採点異議申し立て受付終了	10/1日	第3回オープンキャンパス
8/13日〜16水	全学休業日	10/11水	振替講義日(月曜日)
8/28月	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	11/6月	振替講義日(金曜日)
9/6水	海外語学留学生出発【中国】(予定)	11/17金	後期修学指導面談(予定)
9/8金	前期修学指導面談②(予定)	11/26日	特別入学試験
9/12火	夏季休業終了	12/19火	振替講義日(木曜日)
	2年次所属学科発表	12/27水	冬季休業開始
9/13水	2年次ガイダンス(午前)	2018/1/9火	冬季休業終了
	1年次ガイダンス(午後)	1/10水	講義再開
9/14木	3年次ガイダンス(午前)	1/13土・14日	大学入試センター試験
	4年次ガイダンス(午後)	1/18木	卒業論文提出期限